

「安定・専門性」志向が高まる一方、 「理想と現実とのギャップへの耐性」は大幅に低下。 3年間のデータから見た、学生・社会人の性格・価値観変化。

ーエンのオンライン適性検査『Talent Analytics』 分析レポートー

エン株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役会長兼社長：越智通勝）が提供する、オンライン適性検査『Talent Analytics』（<https://jinji-test.en-japan.com/>）は、活躍できる人財の見極めから、入社後の配属、育成・フォローの設計まで、一気通貫で活用できるオンライン適性検査です。

この度、『Talent Analytics』上で得られた2023年度から2025年度の3年間に受検した学生・社会人（延べ約45万人）のデータを基に、性格・価値観の変化に関する推移を分析いたしました。「性格・価値観の3か年トレンド」として、レポートの一部を抜粋し、傾向を報告いたします。



分析結果の概要

2023年度から2025年度にかけた各項目の変化の大きさを、測定した全項目の平均的な変化幅と比較しました。上昇した項目のうち、変化幅が最も大きかったのは、キャリアの安定を求める「安定志向」でした。その上昇幅は、全項目の平均変化幅と比べて3.2倍となりました。あわせて、特定の分野で専門性を高める「スペシャリスト」や、決めたことを粘り強くやり抜く「持続性」も上昇しており、専門性を磨きながら自分の力で安定を築こうとする傾向がうかがえます。

一方、最も大きく低下したのは、理想どおりに進まない現実とのギャップに直面した際のストレス耐性を指す「理想と現実とのギャップへの耐性」です。低下幅は、全項目の平均変化幅と比べて3.5倍となり、全項目の中で最大でした。これに続いて、「変革性」「自立」も低下しています。

｜変化の大きい項目

▲ 上昇トレンド（スコアが上がった項目）

安定志向	3.2倍
持続性	1.9倍
スペシャリスト	1.5倍

▼ 下降トレンド（スコアが下がった項目）

理想と現実とのギャップ	3.5倍
変革性	2.3倍
自立	1.7倍

『Talent Analytics』企画責任者 神田堅太 コメント



本分析では、先行きが不透明な現代において、人々がリスクを避け、「安定」を求める傾向が強まっていることが確認されました。

一方で、その「安定」の意味合いが、終身雇用を前提とした「会社を守る安定」から、「自身が身につけた力で選び、選ばれる安定」へと広がっているのではないかと考えます。また、「理想と現実とのギャップへの耐性」が低下していることも確認されました。

ただし、これらはあくまで全体平均の推移であり、すべての人が一様に変化しているわけではありません。全体の平均値だけで一括りにするマネジメントや育成を行なうことは、ミスマッチや早期離職、エンゲージメントの低下を招くリスクを高めかねません。

なお、レポートでは、年代別の傾向をはじめ、全体平均だけでは見えにくい詳細な分析結果も紹介しています。

これからの採用・育成においては、社会における価値観の変化を踏まえつつも、目の前の一人ひとりの適性や価値観を正しく見極め、対話していくアプローチがこれまで以上に求められています。

今後もエン株式会社では、データと現場知見の両面から、企業の入社後活躍を支援してまいります。（『Talent Analytics』企画責任者 神田堅太）



本調査の詳細をまとめたレポートは
[こちら](#)よりダウンロードが可能です。

知能や性格・価値観がわかるオンライン適性検査『Talent Analytics』



<https://jinji-test.en-japan.com/>

タレントアナリティクスは、面接や書類で見抜きづらい「知的能力」「性格・価値観」を可視化できるオンライン適性検査です。エンの30年にわたる適性検査の開発・運用ノウハウと300万人以上の受検データをもとに開発。スマホで簡単に受検でき、面接質問ツールや、採用要件定義ツール、テスト結果分析機能、組織内の相性可視化機能などのオプション機能も充実。入社前から入社後活躍まで幅広く活用することができます。

本ニュースリリースに関する
お問い合わせ先

エン株式会社 広報担当

<https://corp.en-japan.com/>

〒163-1335 新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー

TEL : 03-3342-6590 MAIL : en-press@en-japan.com